

卓越した人材育成を志向した保育・教職実践演習の 魅力あるカリキュラム開発 —挑戦的試行としての入学前教師1日体験の活用 および教職実践演習に活かすホームページ作成の試み—

福田 スティーブ利久* 小林 稔** 石井 勉***

Fostering Excellence in Human Resources Development through Curriculum Development of Seminars in Educational Practice: Implementation of Challenging and Authentic Educational Experiences

Steve T. FUKUDA, Minoru KOBAYASHI, Tsutomu ISHII

要旨 教職実践演習において魅力的な学校体験活動の開発を目指すものであり、その試行に関する報告を行うことを、本研究の目的にしている。第一は、「挑戦的試行としての入学前教師1日体験の教職実践演習での活用」であり、第二は「小学校英語の授業・教材アイデアをシェアするホームページ(HP)の作成と効果検証」である。「汎用的能力」に関する自己成長の自覚に関わる記述が多く為されたこと、教職意欲の形成に影響すること、ポートフォリオの役割やLMSの機能を具えることで、教職実践演習が目標にする卓越した人材育成に貢献すると期待できる。

キーワード: 教職実践演習, 学校体験活動, 汎用的能力, ホームページ・デザイン

1. はじめに (研究の背景)

この20数年ほど、公文書紛失や体罰など社会的な問題となることが増加している。サービス事項として処理されるものもあるが、中には教師としての資質を疑われる場合も少なくない。平成22年度入学生から対象に、教員養成の見直しの一環として、教員免許取得者の質保証を目的の一つとして、教職実践演習科目が設定されるに至った。結果として、教職実践演習科目が重要であるが故に魅力あるカリキュラム開発を行って、よりカリキュラム

を充実させ、質の高い教員養成を行うことが求められている。

本学では、教職実践演習が導入される以前から、「先生の助手体験プログラム」として学校体験活動が実施されてきた。最近では「あだち放課後土曜学校」といった補充的なミニ授業を学生が担当する取り組みも為されている。よりカリキュラムを充実させ、大学としての質の高い教員養成を達成するために、これらの学校体験活動を発展させるとともに、プログラムの新規開拓を進める必要がある。

また、本プロジェクトの2次的な意義としては、これまでにない高大連携の在り方を模索すること、ならびに、文教大学の新しいカリキュラムに

* ふくだ スティーブ利久 文教大学教育学部学校教育課程英語専修
** こばやし みのる 文教大学教育学部発達教育課程児童心理教育専修
*** いしい つとむ 文教大学教育学部学校教育課程数学専修

通底する理念「つなぐ」に沿うものと考え、

本研究の目的は、魅力的な学校体験活動の開発を目指すものであり、その試行に関する報告を行うことである。

2. プロジェクトAとBについて

(1) プロジェクトA「挑戦的試行としての入学前教師1日体験の教職実践演習での活用」

①「プロジェクトA」実施の背景

教育に関するさまざまな研究は、日々更新されており、これからの時代、教員には新しい知見を自身で獲得し、日々の指導にあたることが必要不可欠である。すなわち、教員は、入職後、常に自己成長を意識することが求められるのである。高度専門職業人に関しては、これまでも「理論と実践の往還」による自己成長が指摘されてきた。したがって、入職後、スムーズに「理論と実践の往還」を図るためには、教員養成段階からそれを実践し、習慣化していくことが望まれる。

また、教員養成段階から、教員を終えるまでの長いスパンを想定しつつ、「理論と実践の往還」を考えると、大学は理論を学ぶことが主であるので、実践の場をどう設定するかが1つのポイントになり、逆に、入職後は、常に実践とふれ合っているため、如何に理論について学ぶ場を設けるかが、充実した「理論と実践の往還」を図るためには重要である。

ただし、教員養成は同じ高度専門職業人である医師養成とは異なり、4年間という短い養成期間である。また卒業前の期間を考慮すると実際は、入学した時点で4年間を確保することができない。さらに、わが国は、4年間で12週間以上の教育実習を課している欧米とは異なり、4～6週間という教育実習期間であり、先進国で実習期間が最も短いといわれている。一時期、教員養成6年制が提起され、教育実習期間を延ばし、理論と実践の往還を充実させようとの議論がおこったが、

現時点でこの話題は立ち消えとなっており、前述したように国際的にみても教員養成教育において理論と実践の往還を充実させる新たな方法を模索する必要がある。

そこで、教員候補生が大学への入学前に何らかの方法で、教職の実践の場を経験することは、教員養成カリキュラムに参加する上できわめて意義深いシステムになると考えられる。

他方、高度専門職業人養成における入学前教育、あるいは早期臨床体験実習については、教員養成分野では未だあまりみられないものの、医学・薬学教育分野で散見することができる。例えば、佐賀医科大学（白浜、1996）では、1年次必須で精神科棟の介護実習が行われ、コミュニケーション力の向上と援助者としての満足感について教育効果が認められたと記している。また、欧米では、入門期の医学教育において、教室での縫合スキル教育と手術室体験を統合させることによって、外科に対する興味関心が高まったり、その後の学習に対する自信がついたりする等の報告が見られる（John C., 2010）。

②目的・概要など

i) 目的

A：卒業前の4年生にとっての主な目的

教師は、医師や弁護士、看護師などと同様、「高度専門職業人」といわれており、常に自己成長が求められている。教職実践演習の受講生（卒業前学生）が入学前学生の教師1日体験の活動レポートを読み、それにコメントを付すことで、卒業前学生が自身の4年前を明確に思い返し、4年間の自己成長を強く自覚するとともに、理論と実践の往還の大切さを認知することが主な目的である。

B：入学前の教員志望学生にとっての主な目的

前述したように教員志望者にとって、「理論と実践の往還」はきわめて重要である。教員志望者

の大学4年間における理論と実践を具体的にあげると、その理論は、「大学での学び」であり、実践は、小・中・高校での「実習等」である。ただし、教師経験（実践）がまったく何もない状態で大学の学びが始まるのではなく、大学での学び（理論）の前に、在籍する学校（高校）で、教師の仕事（実践）に触れることによって、大学での学び（教職課程）のスタートを円滑にするとともに、教職の学びの深化を図ることが主な目的である。

③研究の方法

i) 対象と実施期間

対象は、教職実践演習を受講している4年生および推薦入学に合格した者で、本プロジェクトの参加を希望する者である。したがって、推薦入学の合格発表が行われる11月下旬より翌年3月中旬までが実施期間である。

ii) プロジェクトAの手続き

9月末：推薦入試の受験者へ文書にて入学前課題を提示する。

10月末：教職実践演習においてコメントを付す協力者（4年生）を募集する。

12月上旬：推薦入試合格者の中で教師1日体験の課題実施を希望する者に対し、具体的な課題を提示する。同時に学校長と担任に依頼文を送付する。

2月下旬まで：教師1日体験を希望した入学予定者は、自分が通っている高校で、体験活動を行う。

2月下旬：入学予定者は、教師1日体験のレポートを大学担当者に送付する。

2月下旬：大学は4年生にレポートを転送する。

3月上旬：4年生は入学予定者のレポートにコメントを付すとともに、教員志望者としての大学時代の自己成長について記述し、大学担当者に送付する。その後、大学から入学予定者に4年生のこ

メント付レポートを送付する。

3月中旬：大学から協力していただいた高等学校の学校長および担任へお礼文を送る。

iii) プロジェクトAの評価方法

4年生のコメントから自己成長が認められる部分を確定し、質的分析を行う。なお、質的分析にあたっては、その内容的妥当性を担保するため、教員養成に10年以上携わっている複数（3名）の大学教員の合意によって判断・評価する。

④結果（教育効果等について）

A 4年生のコメントとその分析

次のi～viiのコメントについて、下線部分は、自己成長を認知していると判断した。また、二重下線部は、主に入職後の意欲ならびに、波線は理論と実践の往還に関係すると評価した。

i. H. M. さん

Sさんのレポートを読んで、4年前まで教育に関して知識があまりなかった頃の自分と重なりました。文教大学での学びは、教育の専門的な知識や、各教科の指導法は勿論のこと、教育心理学や、カウンセリングなど児童心理教育ならではの知識・技能も身に付けることができました。また、周りには、先生になるという同じ志を持つ仲間にも恵まれて切磋琢磨しながら学生生活を送ることができました。文教大学で過ごした日々は、これから教師として働いていく中で、私の原動力になっていくと思います。このレポートを読んで改めてそのことを実感することができました。

ii. M. M. さん

私が大学4年間で学んだことは、「受容・共感の大切さ」です。大学4年間は、勉強、部活、アルバイト、交友関係など、一気に世界が広がると同時に小さな悩みが絶えない日々でした。そんな時はいつも「わかるよ」と私の悩みを受容し、共

感してくれる友達がありました。「誰かが自分の気持ちを分かってくれる」というだけでこんなにも前向きな気持ちになれるんだということを、何かに悩むたびに思い知りました。教師になっても、子どもに対して受容と共感を大切にし、子ども達が安心できる学級をつくっていきたいです。社会人になり、たくさんの子どもや大人など今まで以上に人との関わりが増えると思いますが、4年間で私の友達がしてくれたように、常に受容と共感を心がけて良い人間関係を構築していきたいです。

iii. S. S. さん

Nさんのレポートを拝見し、高校生が高校で教師体験をしている場面がなかなか想像できなかったのですが、教育についての学びが何もない状態で体験しているのがすごいな、と客観的に感じました。自分が4年間の学びを持った今、Nさんと同様一日体験を行うことができたら、いろんな視点で感想を書けるのではないかなと思いました。

特に授業見学においては、先生方が導入だけでなく、進度に合わせた工夫をされていることも考えられるし、授業準備の段階でつまずきを予想し対処していることも考えられるので、そういった視点からも感想を書けるだろうなと想像しました。また、Nさんが書いていた私語が多いというクラスの課題から詳しい子どもたちの様子や実態はどうなのか、教室環境はどうなのか、などが自分の中で気になることとしてありました。些細なキーワードからいろいろな考えや選択肢が思い浮かぶようになったことも成長できた部分だと感じました。

iv. K. Y. さん

私自身が文教大学の4年間で一番成長したと感じることは、「積極性」と「コミュニケーション能力」です。

授業やサークル活動やアルバイト、文教大学が主催で行うボランティアなどの参加により、様々な人々と関わってきました。その中で、「積極的

に新たな場に足を踏み入れ、知らない人々と関わることで、自分の価値観が変わり、視野が広がりました。これらの積み重ねで「コミュニケーション能力」が向上したと思います。4月からも積極的に学び、子どもや同僚・保護者の方々と積極的に関わり、コミュニケーションを密にとりながら、充実した教員生活を送っていきたいと思います。また、児童心理教育コースの学生として、教育学と心理学の両側面からの学びを武器にし、即戦力になれるよう日々努力を惜しまず頑張っていきたいと思います。

v. Y. O. さん

私が大学で成長したことは、話す力だと思っています。大学での授業で人と話す機会や友達との関わり、サークルの経験、アルバイトでの接客、教員採用試験の対策等多くの経験を4年間で積み重ねた結果、精神的な面でも成長し、自分の言葉で分かりやすく伝えるという力がついたと思います。まだまだ未熟だとは思いますが、4年間で自分の気持ちをコントロールしながら、上手く人や困難と関わっていくことができるようになったと考えています。

vi. A. W. さん

4年間を通して、文教大学での授業で理論を学び、それらを教育実習やアメリカ教育研修、またボランティア等での実践の機会が多く設けることができ、より教育についての理解を深めることができました。

また、4年間を通して視野が広がったなどと思います。大学生活を通して学科の仲間や部活の仲間、そしてアルバイトの仲間等多くの人と関わることができ、多角的な視点を持って、柔軟性のある考えを身につけることができました。

vii. C. Y. さん

このレポートを読んで、自分自身教員としての「知識」が身につけていることを感じました。読

んでいる中で、「これはあの授業で学んだ内容だな」と考えながら読むことができたので、この4年間授業を通して学んだ知識は、きちんと自分の中に残っているのだと自分自身の成長を実感しました。

B プロジェクトAの総括的評価（入学前学生に対する4年生のコメントから）

4年生のコメントから自己成長を整理すると大きく「専門的知識」と「汎用的能力」の二点を指摘することができよう。例えば、前者の専門的知識に関して、「i. H.M.さん」は、「教育の専門的な知識や、各教科の指導法は勿論のこと、教育心理学や、カウンセリングなど児童心理教育ならではの知識・技能」と記述しており、「vii. C.Y.さん」は、「教員としての知識」をあげている。また、「iii. S.S.さん」は、「導入だけでなく進度に合わせた工夫や教室環境」など教科指導や学級経営にかかわる専門的知識を自己成長の一部として示している。他方、「汎用的能力」に関する自己成長の自覚として、「受容・共感の大切さの認知（ii. M.M.さん）」、「積極性とコミュニケーション能力（iv. K.Y.さん）」、「話す力（v. Y.O.さん）」および「視野が広がった・多角的な視点・柔軟性のある考え（vi. A.W.さん）」があげられる。もちろんこれらの知識と能力の獲得は、理論と実践の往還があったからであり、さらに、二重線部の記述にみられるよう、本プロジェクトの成果の1つとして、4年間の自己成長を自覚させるだけでなく教員養成教育の最終段階の学生に対して、教職意欲の形成に影響することが明らかとなった。

(2) プロジェクト2「小学校英語の授業・教材アイデアをシェアするホームページ（HP）の作成と効果検証」

①プロジェクトの概要

現ゼミ生、ゼミを卒業した小学校教員を対象に実施した。本プロジェクトの中核をなすホーム

ページ名は、“Share Ideas Laboratory”（個人情報・著作権の利用契約・同意書あり、登録制）である。このホームページを作成した目的は、学生と現場をつなげ、お互いの自己研鑽を促すことである。

2020年から小学校高学年で教科となった外国語科の課題は少なくない。その一つに指導方法や教材・学習活動のアイデアがないことまたはつくる時間がないことが報告されている。本学の英語専修は全国から見ても数少ない小学校英語の専門教員を育成している中、英語そのもの、そして英語教育の理論をもとに専門授業で実際に小学校英語の教室で使用できる多くのアイデアについて、課題、プロジェクト、評価方法が見出されている。

また、英語専修の卒業生も全国に輩出され独自の授業計画や教材を作成しながら授業実践をしているが、その教材は一、二回使って終わりの場合が多い。これらは非常にもったいないと気づいた。そのため、英語を磨き続けている、そして、最新の英語教育理論を身につけ、専門家（専修所属の教授など）の下に様々なアイデアを出している学生がつくる授業計画や教材をお互いに（学生と現場の教員）シェアし、お互いのフィードバックによる教育力の向上ができる場づくりを考えた結果がこのHPをデザインし、立ち上げる理由になった。

なお、予算を10万円として外部へ発注した。HPの利便性・利用しやすさなどの側面だけではなく、効率よくスピーディーに作業を終わらせることを考慮し、専門家に制作してもらう方がよいと考えた。（下記の画像参照）

②ホームページが備えるべき要件

ホームページの作成にあたり、以下の3点の要件を設定した。

- ・学生が作成した指導案と開発した教材を共有・フィードバックできるHP
- ・教育系アプリを紹介するHP
- ・利用者のやり取りで新教材を開発するHP

利用者が作成した指導案や教材などをHPで共有する。共有は、閲覧だけではなく、ダウンロードして各自の英語授業や模擬授業に合わせて修正もできるような仕組みをつくった。その後、アップロードされた教材（使用者が修正した指導案や教材）などについてコメント欄を利用し、指導案や教材に関するフィードバックを行う。このことにより、作成者や次に使う人の学びにつなげる期待ができる。たとえば、ダウンロードして修正して使った指導案や教材などを再アップロードし、作成者がそれをフィードバックとして利用する。卒業生（現場の小学校教員）にとっては学生が大学で学ぶ新しい技術やアイデアを学べる自己研鑽につながり、他方、ゼミ生にとっては、自分の学びが現場とのつながりをつくることにより、現場を知るという観点から動機づけだけではなく、抽象的な授業での学びの具体化、知識のさらに深く学べることが期待できる。

HPをこのように利用することにより学生が課題を成績評価や課題をこなすために行うだけではなく、より高いモチベーションで学習し、その学習内容の深い理解につながる。また、このプロセスを経験することによって、深い学び（学びを自分の生活や社会・世界につなげる）の体験活動にもなり、深い学びから得る真正の学びの必要性や大切さもわかるようになる。この挑戦的な学びが今後教員として自分の前にいる学習者に同じ深い学びの場をデザインできることを期待したい。

③プロジェクトの流れ

2020年度後期にHPを作成し、2021年度中に教材などをアップロードしたり、共有したりする予定である。そして、2022年度前期からゼミ生と卒業生を中心に登録してもらい、1年かけて効果を検証する。その結果、計画した期待や効果に関して、実現できたかどうかを判断することになる。

今後は、HPを専門の授業と紐づけながら、授業課題や授業の振り返りを記録できるポートフォリオの役割に発展させていきたい。また、LMS

機能を持つHPにアップグレードできれば、教職実践演習が目標としている卓越した人材育成の実現がより可能になると思われる。具体的には、ゼミ生を中心に作成した指導案・教材などをHPにアップロードしたり、教職実践演習の「学びのポートフォリオ」を通した振り返りをHPにアップロードしたりする。また、教職実践演習の「学びのポートフォリオ」を通した振り返りをHPにアップロードした学習物（指導案や教材など）や振り返りとつなげることで、深い学びの実現が期待できると思われる。

3. 全体的な成果と課題および今後の方向性

本研究の目的は、魅力的な学校体験活動の開発を目指すものであり、その試行に関する報告を行うことである。ここでは、様々な取り組みの中から2つのプロジェクトの開発の概要を示し、その試行の結果を報告した。

その第一は、プロジェクトAとして実施された「挑戦的試行としての入学前教師1日体験の教職実践演習での活用」である。専門的知識を自己成長の一部として示している。その中で、「汎用的能力」に関する自己成長の自覚に関わる記述が多く為されたことが指摘できる。さらに、教員養成教育の最終段階の学生に対して、4年間の自己成長を自覚させるだけでなく、教職意欲の形成に影響することや「理論と実践の往還」に関係していることが明らかとなった。

その第二は、プロジェクトBとして実施された「小学校英語の授業・教材アイデアをシェアするホームページ（HP）の作成と効果検証」である。その目指すのは、HPを各専門の授業と結び、多くの課題や授業の振り返りを記録できるポートフォリオの役割をもたせることで、LMSの機能を持つHPに発展させることができる。すなわち、教職実践演習が目標としている卓越した人材育成にさらに貢献すると期待できる。

(参考・引用文献)

白浜雅司 (1996)「佐賀医科大学における医療倫理教育」生命倫理 6, 57-61.

John C. Kirkham, BA, Warren D. Widmann, MD, et al. (2010). Integrating Surgical Skills Education into the Anatomy Laboratory, Journal of Surgical Research, 158, 36-42.

文部科学省 (1997)「教育職員養成審議会第1次答申 (平成9年7月28日)」

文部科学省 (2020)「教職実践演習の実施に当

たつての留意事項」(平成20年10月24日)」

文部科学省 (2021)「平成31年度から新しい教職課程が始まります」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/1414533.htm

本研究は令和2年度文教大学学長調整金による研究支援(「卓越した人材育成を志向した保育・教職実践演習の魅力あるカリキュラム開発」研究代表者:石井勉)を受けて実施された。

資料1-1

別紙2 自由課題(教師1日体験)レポート用紙 提出 令和 3 年 2 月 5 日

() 高等学校 氏名 ()

※次の1-4についてまとめましょう【自由記述】。

1. 期【実際の体験等の内容ならびに所感】
期は特に決まった時間に登校(通勤)するというのではなく、その先生の自由だといえます。今回のインタビューをした社会科の先生は8:00に通勤し、8:30-期会に参加するといえます。期会では各期で伝えるべきことを半年等で整理するそうです。また、欠席の生徒からの連絡などもこの時間に処理できる分はしてしまおうそうです。

2. 授業準備【実際の体験等の内容ならびに所感】
高校の先生は毎時間授業があるというわけではないため、空きコマを使って職員室等で授業準備をしているといえます。最近ではパワーポイントでの授業が多いため、その作成に費やす時間がほとんどだそうです。また、空きコマの時間では半年会議、来客対応、事務的調査、委員会会議など私たちが知らない多くの雑務もあると教えて頂きました。

3. 授業中【実際の体験等の内容ならびに所感】
授業準備時間で作成した内容を基に授業を進めていきました。生徒の出席状態などを見て、ペーパーワークや活動内容を臨機応変に変化させ、対応していくそうです。授業の中で一番意識していることは、生徒と対等な視線から考えて、自らも半ば姿勢を忘れないことと公平・誠実に対応していくことだといえます。
また、教師にとって一つの学年は一年ごとに変化していき、仕事のループのようなものであるが、生徒にとっては貴重な一年であり、時間であることを意識しているそうです。

4. 昼休み・清掃の時間・放課後・期など【実際の体験等の内容ならびに所感】
昼休みには、生徒の動向の把握や部活動の連絡をするそうです。また、放課後には半年会議や委員会会議、校務ごとの会議に出席するそうです。時間があれば自分の配属している部活動の指導や生徒指導なども行っているそうです。三者面談や懇談会などもイレギュラーに入ってくるため、皆から放課後の時間が一番忙しいそうです。

資料1-2

※「教師1日体験」を経ての感想と4年生への質問
先生方の仕事を直接見ることはできませんでしたが、インタビューを通して教師の仕事の大変さを感じる事が出来ました。1つの授業を作り上げるために何時間も準備をしたり、授業以外にもデスクワークに取り組んだり、生徒一人一人を見て接したりと自分自身が想像していた何倍も体力と精神を使うのだなと感じました。
担任の先生や先生という立場は、生徒にとって印象を残すと思います。自分自身小学校の先生や幼稚園の先生を今でも覚えています。だからこそ、自分自身が将来教師という立場に立った時、生徒に良い影響を与えられるような教師像を目指していきたいと思います。そして、教育界以外でも視野を広げ、たくさんの人と関わり、常に学ぶということ大切にしていきたいです。

【4年生への質問】
① 教育について大学で学んでこられたと思いますが、学ぶ前と後で教育に対する考え等で変化があったことがあれば教えてください。
② 一番大切だなと感じる大学での授業はありますか。
③ 今のうちにやっておくべきことはありますか。
④ 大学の授業の中で今に生きていると感じるものはありますか。

※本学4年生のコメント(この欄は、大学生が記入します)
教師1日体験 お疲れ様でした！大学入学前から実際の先生の仕事を具体的に知ることができ、貴重な体験になったと思います。考えたばかりの質問に答えることができました。①「教育」とは「教師」だけでなく、思いのほか、様々な形で「教育」に携わっていることに気づきました。②模擬授業299の科目が、授業見習いなどの経験を通じて同じ科目の先生と自分を見比べての大切さや、特に大田先生の授業が、③全体的に大田先生の授業が、大学の先生に負けていないと感じました。④心理学の授業が特に好きで、人々の心を動かすのが好きで、若者の心を動かすのが好きです。今の大学生活が充実したものに感じています！

資料2-1

別紙2 自由課題(教師1日体験)レポート用紙 提出 令和3年2月26日
() 高等学校 氏名 ()

※次の1~4についてまとめましょう【自由記述】
1. 朝【実際の体験等の内容ならびに所感】
5日間朝のホームルームを行った。
(体験内容)
担任の先生から朝の会議の内容を聞き、連絡事項を確認する。
生徒を着席させ、出欠確認を行い、挨拶をする。
連絡事項を伝える。
挨拶をする。
先生に改善点を聞く。

(所感)
この体験を行う前、朝の会の役割は出席確認、挨拶、連絡の3つだけだと考えていた。しかし、先生に指導していただいた際に、朝の会には他に重要な役割があったことに驚いた。それは、出席確認や連絡をしながら全員の顔を見て普段の様子と比較し、体調不良の生徒がいないか確認していたことだ。高校では小中学校と違い、一人ずつ健康観察を行うことがないため、特に注意して見る必要がある。
また、クラスの課題として、先生が話している間の私語が多く、指示が生徒に伝わっていないことが多いと感じていた。私語をさせずに連絡事項をきちんと伝えるために、初めに連絡事項が何点あるかなど、見通しを先に伝えるように心がけた。

資料2-2

2. 授業準備【実際の体験等の内容ならびに所感】

担任の先生から普段の授業の作り方を教わった。
それをもとに小学三年生の算数「割り算」についての簡単な学習指導案の作成を行った。
実際に制作してみると、初めに予定していたものより少ない量しか進めることができずに驚き、単元指導計画の大切さを感じた。

3. 授業中【実際の体験等の内容ならびに所感】

1年生の地理の授業を構成やどのような発問をしているかに注目しながら見学した。
文章や口頭の説明だけではイメージしにくいものは、身近なものと比較したり、積極的にVTRを使用したりして、問題をより身近に感じることができた。
授業をより楽しく、身近に感じさせるために、こどもの興味を引く導入が大切であることを知った。

4. 昼休み・演播の時間・放課後・HRなど【実際の体験等の内容ならびに所感】

今回は体験をすることができなかったが、昼休みはコロナウイルス対策の放送や見回り、授業準備を行っていた。小学校では給食指導があるため、事前の準備が特に大切になると感じた。

※「教師1日体験」を経ての感想と4年生への質問

（感想）

先生方の発言や行動に1つ1つ大切な意味があったように感じた。普段通っていた高校で教師1日体験をすることで、今までの先生方の行動の意図を考えられるようになった。

私はまだ専門的な知識は何も持っていないため、教えていただいた通りに授業を構成しただけだったが、実際に小学生の反応を考えながら作るのはとても楽しかった。生徒の立場からも考えて授業を作ることで、実際に教師になったときに注意したい点などを書き出すことができて良い経験になった。大学で学ぶのがさらに楽しみになった。

〈4年生への質問〉

入学前、入学後に取り組むべきことを教えていただけると嬉しいです。
また、大学で講義を受ける際に気を付けていたことがあれば教えていただきたいです。
よろしく願い致します。

※本学4年生のコメント（この欄は、大学生が記入します）

教師体験お疲れ様です。文教大学教育学部
と
申します。

さんのレポートを拝見させていただきました。読んだ感想と自分自身の体験を交えて僭越ながらコメントをさせていただきますと思います。

朝の会及び、朝教室に入ってくる場面での挨拶・声かけは、児童の変化に気づける最大のチャンスだと私自身も実習を経て分かったことです。さんがそのことに今回の体験で気づけたことは、さんに、教師としての視点が生まれているのではないかなと感じました。また、見通しを立てることは、本当に重要だと思います。児童が見通しを持つことができると、意欲につながったり、支援が必要な子どもにとっても安心できる材料になったりすることもあります。ぜひ、今回の学びを大学での実習やボランティアでも活かしてほしいと思います。

資料2-3

そして、学習指導案の作成に挑戦したこと、本当にすごいことだと思います。私は指導案をなかなかうまく作成することができないので、先生の将来にワクワクしました。さんが感じたとおりに、1時間で進めたい量と、実際にできる量は必ずしも同じではなく、時間が足りないと感じることが多いです。さんもこれまでに時間が過ぎてもおわらない授業を経験したことがあるのではないのでしょうか。時間通りに終わることは本当に難しいことだと私も実習で実感しました。

授業は、導入・展開・まとめという流れで進んでいきますが、一番重要だと言われているのが導入です。さんも感じていたように、導入で児童をいかに引きつけられるか、面白そうと思わせられるか、なんでそうなるの？と思わせられるかが勝負だと私は思います。具体物を用意したり、ICT機器を活用するなどの工夫をわたしも実習で行っていました。小学生と高校生では集中できる時間も異なると思うので、より導入が大切になると思います。また、さんのレポート内で「より問題を身近に感じること」という言葉がありました。問題解決的な学習の中ではそれが何よりも大切なことだと私も思います。自分の生活に結びつくこと、解決したいと思えることが児童の意欲になると思います。

私は私が大学4年間で気づいたことに、いち早く気づけていて本当にセンスがある方だと感じます。ぜひ、この大切な気づきを留めておいてほしいと思います。

さんからの質問にお答えしたいと思いますが、私個人の意見として聞いていただければと思います。

【入学前、入学後に取り組むべきことを教えていただけると嬉しいです。】

→入学前は特に無いと思います。高校生を楽しんでください！

入学後は、せっかくの大学生活なのでいろいろなことにチャレンジすることがいいのかなと思います。私は部活に入ったり、いろいろなアルバイトを経験したり、短期留学に参加したりしました。子どもと関わるボランティアをしていたことも今の自分の力になっている気がします。だけでは交友関係が築けると視野が広がって面白いと感じることもありました。

【大学で講義を受ける際に気を付けていたことがあれば教えてください。】

→講義は、レジュメを配られることが多いと思いますが、教授がポロッと口頭で言った何気ない一言が大事なことも多かったように感じるので、メモをとる習慣を身につけられるといいのかなと思います。

長々とコメントをさせていただきましたが、あまり気負わず、4年間大学生活を楽しんでいただけたらと思います。きっとはいい先生になると思います。頑張ってください！

資料3-1

別紙2 自由課題（教師1日体験）レポート用紙 提出 令和3年2月20日

（ ）高等学校 氏名（ ）

※次の1～4についてまとめましょう【自由記述】。

1. 朝【実際の体験等の内容ならびに所感】

内容：生徒登校時の校門での挨拶（生徒会の時の挨拶当番の経験を記します）

所感：挨拶をした時に挨拶を返してくれる生徒がほとんどでとても嬉しい気持ちになった。また、毎週きまった曜日に当番として挨拶をしていたためいつもと比べ元気のなさそうな友達に気づくこともあった。朝に挨拶を交わすことで仲が深まったり新しく話すようになった友達も多く、挨拶をすることの重要性を再度感じることができた。また、相手から挨拶をされると朝から明るい気持ちになることができた。

2. 授業準備【実際の体験等の内容ならびに所感】

1年生の体育（持久走）の授業準備に参加

内容：用具の準備（タイマー、ラジカセ、名簿、輪ゴム、カウンター、ストップウォッチ）、グラウンドの状況確認（ぬかるんでいたためテニスコート集合に）

所感：大型のタイマーが正常に動かない場合があるため、授業前に正常に動くかを確認していて事前準備の大切さを感じた。大型のタイマーが壊れてしまった時に手持ちのタイマーも同時に使用していることを知った。

3. 授業中【実際の体験等の内容ならびに所感】

1年生の体育（持久走）に参加（1時間目は見学、2時間目は先生の代わりにやらせてもらった）

内容：出欠確認、授業内容の説明、20分間走だったため残り時間を伝える

所感：体育の授業に参加するよりも前に4で書いたHRの経験があったため、伝達事項を簡潔に伝えることができた。しかし、声の大きさが今回もギリギリ聞こえているくらいだったためマスクをしていることも考え大きめに話すべきだと考えた。出欠確認は顔と名前が一致していなかったため難しい部分もあったが返事をしてもらえると嬉しかった。体調が悪くても言い出せる雰囲気があり、このような雰囲気は日頃から生徒と先生で日常的な会話をしたりして距離が近いからこそ作れるのではないかと感じた。また、先生は持久走中に具合が悪そうな生徒がいないかを日頃の各生徒の取り組み方や体調を踏まえてみており、全体だけでなく1人1人に合わせた指導を私もできるようになりたいと感じた。

4. 昼休み・清掃の時間・放課後・HRなど【実際の体験等の内容ならびに所感】

内容：朝、帰りのHRで先生の代わりに連絡事項を伝える

実施前に3つの目標をたてて臨んだ。

①生徒の顔を見て（特に朝）体調は大丈夫そうか、元気そうかを確認する

②後ろの席まで届く声で

③簡潔に伝える

実施してみて：

①朝のHRでは連絡を伝えることに集中してメモばかり見てしまい生徒の顔が見られなかった。帰りのHRではみんなと目が合い緊張したが、朝より見ることができた。担任の先生は話しながらも教室全体を見渡し、話している生徒がいると声をかけているが実際にやってみると誰が話しているのかさえ分からなかった。私も全体を見られるようになるには言いたいことをまとめて落ち着いてやるべきだと感じた。

②実施中、声の大きさが届いているか不安だった。

資料3-2

実施後に友達に声の大きさについて聞いてみたところ、「担任の先生はもう少し声が出ているからもう少し大きくしても大丈夫、でもちゃんと聞こえたよ」とアドバイスしてもらうことができた。

③「～で、～で、あと～です」という風にダラダラと伝えてしまった。

この言い方だとあとどれだけ話を聞いていけばいいかわからない。特に小学生を相手にする場合は簡潔に伝えることが重要となるため最初に「△個連絡があります」と伝えてから話すほうが聞く側も整理しやすいのではないかと考えた。

全体を通して：朝達成できなかったことを悔いには少しだが改善できたのがよかった。

発見することが多くとても充実した時間を過ごすことができた。

※「教師1日体験」を経ての感想と4年生への質問

教師1日体験を経ての感想：

体験をするにあたって先生たちと1対1でお話をできる時間が多くあり、今まで考えもしなかったようなことや、先生側からの考え、課題点も知ることができました。（例：外で話をするときなどに、太陽の光に対して教員よりも生徒が眩しくならないようにする）

大学で学ぶ前に先生側での体験をできたことで先生になりたいという気持ちがさらに大きくなり、とても充実した経験となりました。

また、今回の体験をきっかけにいつも受けている授業を先生の立場になって受けてみると私も先生になったら実施してみたいと感じる部分が多くありました。

（例：日本史の授業 日本史の先生は授業中、歴史の流れなどに関する正しい答えを教えるだけでなく生徒自身が考えられるように問いを投げかけ続けていた。先生は最後には正解を教える必要はないと思っていたけど、モヤモヤでおわらすことで問いが頭に残り、授業後に友達と自分だったらどうするかを考えることができた。）

しかし、生徒会での活動を通して大勢の人を前にして話すことは以前よりもできるようになっていたのですが、実際に40人を目の前にしてほとんど原稿のない状態で指示や説明をするのは想像していたよりも難しい部分もありました。

私は子どもたちに「この先生になら相談できる」と思ってもらえるような小学校の先生になりたいと考えているので、今回の体験を通じてそのような先生になるためには日頃から子どもたちとコミュニケーションをとり、近い存在であることが大切だと感じました。

実際に体験して気づくこと、学ぶことが多かったので大学に入学してからも積極的に多くの人や子どもたちと関わっていきたいと思います。

4年生への質問：

このレポートを読み、コメントを書いて下さりありがとうございます。

今回の体験を通じていくつか先輩に質問したいことができたので答えていただけると嬉しいです。

①上の感想の欄に書いたように、私は子どもたちと関わる機会を多く持ちたいと考えているのですが、先輩はどのような活動に参加していましたか？

②私は複数の人に何かを伝えようとすると考えながら話してしまい、簡潔に言いたいことを伝えることがなかなかできません。先輩は人に何かを伝えるときに意識していることなどありますか？

※本学4年生のコメント（この欄は、大学生が記入します）

まず、質問についてお答えします。1つめの質問について、私は岩手県の子どもたちと夏休みに交流するというボランティアサークルに2年間所属していました。また、1週間小学校へ行く先生の助手体験プログラムという大学で申し込むものに参加しました。大学3年生からは、自分が教員採用試験を受けようと考えていた自治体でボランティアを行っていました。これは週に1回で、これも大学から申し込みました。大学で発信されているものに積極的に参加すると良いと思います！子どもと関わることや関わりたいという気持ちも大切ですが、それだけにとらわれずに一度きりの大学生生活を楽しむことも大切です

資料3-3

②2 つめの質問について、実は私も人前で話すとなると緊張してしまい、上手く話せませんでした。教員採用試験の対策を行っている中で、自分でも話しながら何を言っているのかわかるように、とにかくわかりやすい言葉で短く文を区切るということを意識しました。～して、～でといふ場合は1文に1つにして、自分の頭を整理しながら落ち着いて話すことが大切だと思います。

のレポートを読んで、細かく観察していて向上心があり、考え方が素敵だなと思いました。先生になりたいなと感じた瞬間や初心の気持ちを忘れずに、充実した大学生生活を送ってほしいと思います。大学生活でアルバイトや部活、サークル等様々な経験を通して多くの人と関わって、4年間楽しんでください！！

資料4



資料5



資料6



